

学校施設の環境整備について

1 学校施設の現況

H29.5.1現在

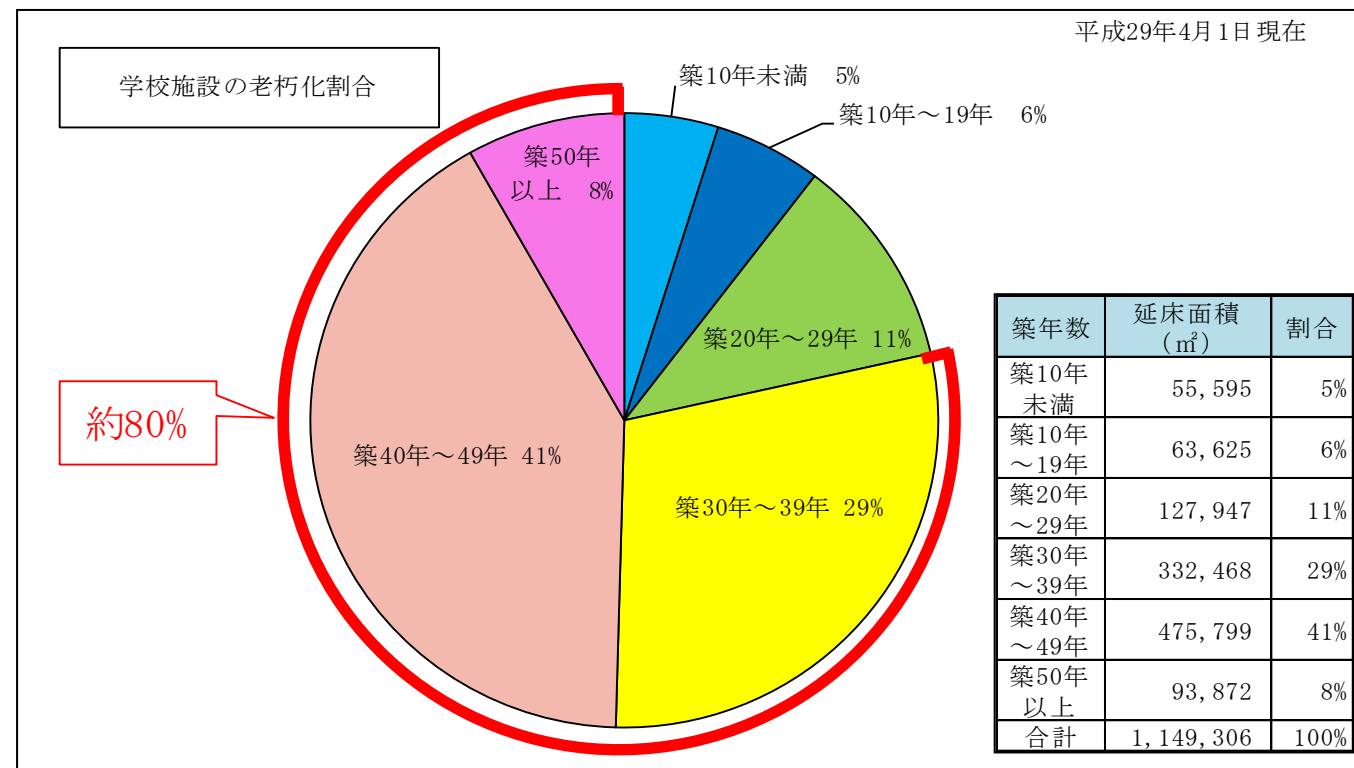
	学校数	棟数(※)	延床面積(※)	学級数	児童・生徒数
小学校	111校	506棟	702,360㎡	1,823学級	48,534人
中学校	55校	293棟	394,377㎡	764学級	23,967人
特別支援学校	3校	14棟	17,135㎡	60学級	355人
高等学校	2校	14棟	35,434㎡	48学級	1,935人
合計	171校	827棟	1,149,306㎡	2,695学級	74,791人

※校舎及び屋内運動場の棟数・延床面積。

2 学校施設環境の課題

(1) 老朽化の進行

本市の学校施設は、昭和40年代から50年代にかけての児童生徒数の急増時に建設されたものが多数あり、その施設の約80%が建築後30年以上を経た現在、建物内外部や設備配管機器などの老朽化が進んでいる。



(2) 老朽化に伴う支障等 (主なもの)

施設の老朽化に伴い、下記をはじめとして、様々な支障を来している。

ア 外壁の劣化に伴う、剥がれ・落下	エ トイレ、給食室の衛生状態悪化
イ 配管類の劣化・破損等に伴う、水漏れ・異物混入	オ 教室等の床 (Pタイル) の劣化、剥がれ
ウ 屋上の劣化に伴う、雨漏りの発生	カ 防災設備 (防火シャッター、火災報知器等) の不具合

3 これまでの取組状況・今後の事業費見込み

ア 千葉市耐震改修促進計画 (平成20年3月策定) に基づき、耐震補強を優先実施し、平成27年度に100%完了した。

(総事業費 H9～H27年度 56,890百万円)

イ 千葉市学校施設保全計画 (平成24年3月策定) に基づき、平成28年度からは、大規模改造工事等の本格的な老朽化対策に着手。

(計画は、年8校大規模改造工事を実施する予定だったが、現状では3～5校程度の実施。)

ウ 上記に加えて、施設・設備の支障発生時における、各種改修工事 (約4億円/年) や小規模修繕等 (約3億円/年) を実施。

エ 現状では、危険性の高いもの、毎日使用する設備、授業等の実施に支障を及ぼすもの等について、優先的に対策を実施している。

【優先順位】

(ア) 落下した場合危険な外壁改修

(イ) 大規模改造 (屋上防水、配管類更新、床材改修、給食室改修等) の計画的な実施

(ウ) トイレの環境改善 (洋式化、ドライ化、配管設備改修等)

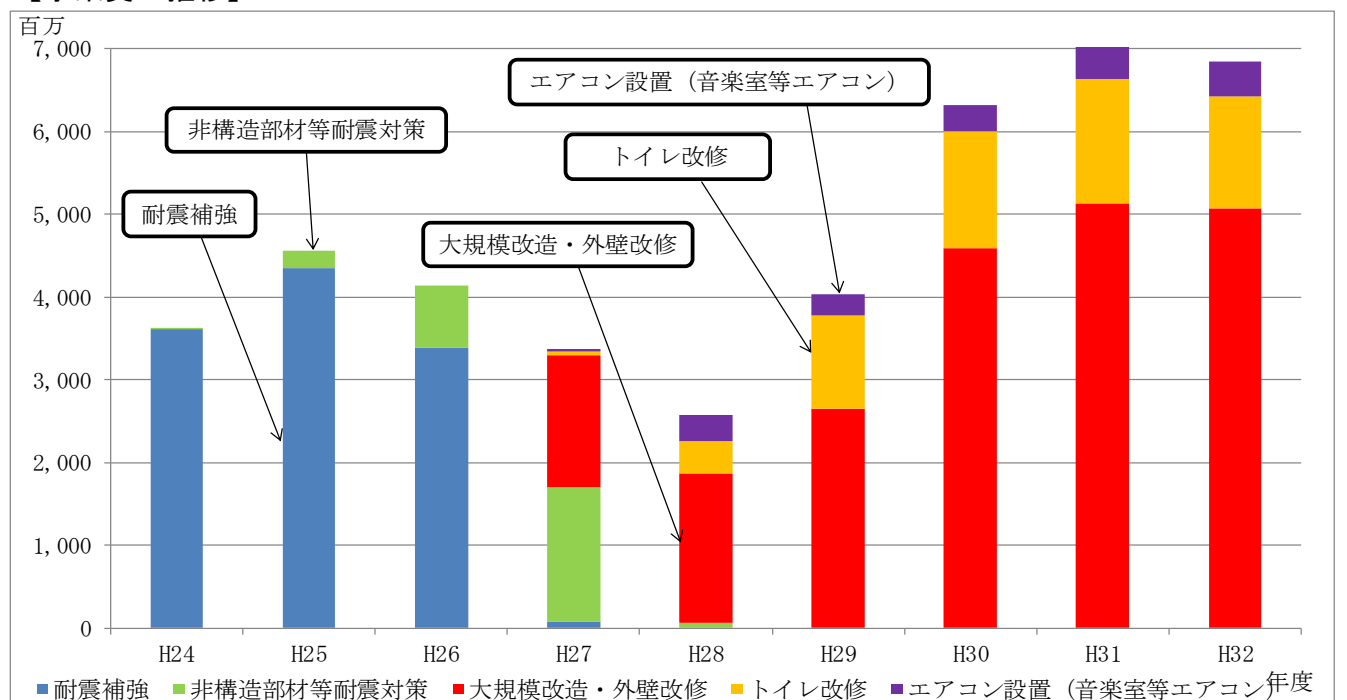
(エ) 音楽室及び特別支援学級へのエアコン整備

【工事の予定】 ※H28は実績

事業内容	H28	H29	H30	H31	H32	計画事業量
大規模改造	3校 (2%)	5校 (5%)	5校 (9%)	5校 (12%)	5校 (15%)	152校/20年
外壁改修	15校 (14%)	5校 (19%)	7校 (25%)	7校 (32%)	6校 (37%)	107校/15年
トイレ改修	5校 (5%)	9校 (13%)	11校 (24%)	11校 (34%)	11校 (45%)	105校/10年
エアコン設置 (音楽室・特別支援学級等)	25校 (15%)	27校 (32%)	29校 (50%)	40校 (74%)	42校 (100%)	163校/5年

※ () は計画事業量に対する進捗率

【事業費の推移】



※H29以降については、見込みの値である。

4 学校施設の長寿命化計画の策定について

計画の位置付け

平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」（インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）により、各自治体はインフラの維持管理・更新等に係る基本的方針を定めることとされ、本市においても「千葉市公共施設等総合管理計画」を平成27年5月に策定した。

この「総合管理計画」では、個別施設毎の長寿命化計画を、平成32年頃までに策定することが求められており、教育委員会所管の市内学校施設を対象として、「学校施設の長寿命化計画」を策定する必要がある。

(1) 計画の構成

ア～キの内容を盛り込んだ計画を策定することが求められている。

ア 長寿命化計画の背景・目的等	オ 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等
イ 学校施設の目指すべき姿（教育行政のソフト面と連携）	カ 長寿命化の実施計画（コスト・長寿命化の効果）
ウ 学校施設の実態（老朽化状況）	キ 長寿命化計画の継続的運用方針（フォローアップ）
エ 学校施設整備の基本的な方針等（規模・配置計画）	

※「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（平成27年4月 文部科学省）」による。

(2) 計画策定に向けた今後のスケジュール（案）

ア 実態把握基本調査の実施

躯体コンクリートの圧縮強度試験や中性化試験の結果の整理を行う。

※未実施校について、平成29年度中に調査を完了させる。

イ 長寿命化計画の策定（策定期限：平成32年度）

(3) 計画策定にあたっての視点（案）

- 中長期的な施設の維持管理を効率的に行う必要があるのではないか
- 限られた予算の中で、改修・整備等の優先順位について考え方を整理し、計画的に進める必要があるのではないか
- 次代のニーズに対応した学習環境を整備する必要があるのではないか
 - ・ 児童生徒が減少中での学校施設
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」など、次期学習指導要領で求められる学校施設
 - ・ 特別な支援が必要な児童生徒が安心して学べる学校施設
 - ・ 地域における学校施設